

銃創、爆傷等における外傷医療体制の構築に関する研究

研究分担者 木村 昭夫 国立国際医療研究センター病院 救命救急センター長

研究要旨：

銃創・爆傷患者診療指針を作成し、日本外傷雑誌（電子ジャーナル）に掲載した。内容については、Ⅰプレホスホスピタルケア、Ⅱ銃創患者の院内診療手順（初期診療、弾道学の基礎、頭部銃創、頸部銃創、胸部銃創、腹部銃創、四肢銃創）、Ⅲ爆傷患者の初期診療について、アルゴリズムや問題点を解説し、その内容を公開しパブリックコメントを募集した。さらに全文を小冊子にまとめ、銃創・爆傷患者診療の中心的な担い手となる日本外傷学会の全評議員に郵送配布し、今後の日本における銃創・爆傷診療の向上のためのレガシーとなることを期待する。

A. 研究目的

世界的にテロの発生件数は急激に増加し、2014年には年間17,000件を越えている。ここ20年間、わが国では大規模なテロは発生していないが、日本国民をターゲットとしてテロ行為を行う可能性は存在する。このように、現在の国際情勢や国内での東京オリンピック・パラリンピック2020など重要国際イベントを控え、テロ発生に対する医療者の備えが必要である。しかし、わが国に銃創患者・爆傷患者診療の経験がある医師は非常に少ないことから、診療手順を整理した診療指針を策定・普及させ、この弱点を少しでも解消しておく必要がある。本分担研究に付託された目的は、銃創・爆傷患者に対する診療指針の作成とその知識の均霑化である。

B. 研究方法

本年度は銃創・爆傷患者診療指針を冊子化し、銃創・爆傷患者診療の中心的な担い手で、重症外傷の専門家である日本外傷学会の全評議員に、熟読されることを目指して、同冊子を配布すること。

（倫理面への配慮）

2次資料のみを用いた研究であり、倫理面で特記すべきことはない。

C. 研究結果

平成30年度より作成し、パブリックコメントを受け入れてきた銃創・爆傷患者診療指針を、A4;63ページに冊子化した。それにそれを銃創・爆傷患者診療の中心的な担い手となる重症外傷の専門家である日本外傷学会の全評議員に郵送した。

D. 考察

昨年度は、医療従事者以外のボランティア等にも理解しやすいものに主眼を置いたが、今年度はオリンピック・パラリンピックが無観客で行われるようなことになっても、本研究の成果が今後の日本の外傷診療においてレガシーとなるべく、今後も銃創・爆傷患者診療の中心的な担い手となる重症外傷の専門医である日本外傷学会の全評議員に熟読してもらえよう、全内容を冊子化して郵送配布した。

E. 結論

銃創・爆傷患者診療指針を冊子化し、重症外傷診療の専門医である日本外傷学会の全評議員に、郵送配布した。今後、オリンピック・パラリンピックの枠を超えて、各々に熟読され、我が国の銃創・爆傷診療に役立ちレガシーとなることを切望する。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括
研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

- ① 銃創・爆傷患者診療指針 日本外傷学会
雑誌 32巻, 3号, p. Ver1-1-63, 2018.
- ② 銃創・爆傷 日本医師会雑誌 149巻特別
号(1), S100-106, 2020.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし